

専門技術で鉄道の安全と効率化に貢献

事業内容

1951 年設立。鉄道の保線作業に関連する計測機器・防災関係の警報器類、ソフトウェアの研究開発、製造販売、設置工事等を行う。

特許登録番号と内容

特許第 3214768 号	構造物の変位自動測定装置
特許第 3397911 号	レール遊間測定装置
特許第 3481924 号	平面性測定機能付軌道用標準ゲージ
特許第 3800548 号	軌道検測装置の測定値誤差補正方法
特許第 4359165 号	敷設レールの軸応力測定装置

他、特許登録 25 件（2011 年 3 月現在）

ACTIVITIES&ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役 金子淑夫さん

「新製品は進化の証」と、目標件数を設定して挑戦

株式会社カネコは、新幹線や在来線といった鉄道の施設や保線、土木をはじめとした基礎分野の計測器や保安装置を手掛ける日本屈指の専門メーカーだ。

その歴史を紐解くと、創業者の金子慶尚氏は戦時中に中国の鉄道部隊にいた人物で、部隊では左右レールの傾きを測る水準器の改良型を考案。終戦後はこの技術を生かし「標準ゲージ」を開発した。「1946 年に特許権を取得したときは“これで私も社会に認めてもらった”と喜んでいたと聞いています」と金子淑夫代表取締役は話す。その後、同社が誕生した。

その DNA を引き継ぐ同社は、鉄道を中心に安全性と効率化の向上を目指し、活動を展開している。たとえば同社の「トラックマスターオートタイプ」は、線路のゆがみを計測するもの。以前は手作業で点検していたが、この装置の誕生により、より厳密でスピーディーに作業できるようになった。金子代表は「鉄道の安全は、こうした日々の安全管理が欠かせません。私たちはそのお手伝いをしたいと考えています」と話す。

ほかの分野では、消防の投光器も開発した。これは地元の消防署からの相談から誕生したもので、災害地での救済活動にも採用されている。

今まで出願した知的財産権は約 200。その中で登録し、現在も有効なものは 30 件くらいだという。同社で知財権関連を担当している技術開発部の太田賢一取締役

役部長と小山愛主任は「当社は新製品の開発を“常に進化しているという証”と考えていることもあり、毎年新開発の目標数を掲げています。そして、その中からとくに優れたものを特許申請しています」と説明する。

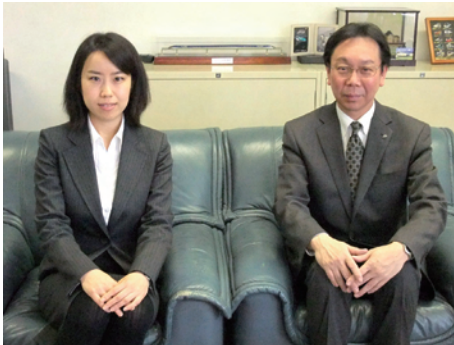
知財に関する各種セミナーや研究会等にも出席し、専門知識の勉強に余念のない 2 人は、金子代表、社外の弁理士と連携しながら、社内の知財管理を行っている。

また同社内では 10 年ほど前からは、もっとも独創的な発明に贈る「発明賞」を設置。創立記念のセレモニーで表彰し、副賞を授与している。社員の努力と成果を称えるこのイベントは好評で、社員のモチベーションと知財への意識を高めることにもつながっている。

共同開発の契約書には知財権に関する内容も網羅

扱っている製品の性質上、同社の知財は鉄道会社等と共同開発したものも少なくない。しかし先方と申請の有無や権利に関してのトラブルが起きたことはないという。その理由は、信頼できる企業と仕事をしているということ。そして開発時に交わす契約書に、知財権に関する項目も設け、しっかり取り決めをしていることがあげられる。

申請に関しても、「多くの場合、先方からの問い合わせにより特許性のあるところを確認し、先方と協議したうえで申請するか否かを決めています」と太田部長。さらに小山主任は「信頼できるうえに強い力を持つ大手



知財権の管理担当 技術開発部
取締役部長 太田賢一さん（右）
主任 小山 愛さん（左）

企業とのタッグは、当社の権利も守ってもらえるというメリットもあると思います」と加える。

第三者による侵害トラブルも全くなかったわけではないが、訴訟問題に発展するようなことはない。これは同業他社が比較的少ないということもあるだろう。そして「先代は“技術を真似されたら、それ以上のものを作ればいい”という大らかな考えでしたから、あまり神経質には考えていません」と金子代表は話す。

ノウハウをオープン化する特許申請をせずに、ブラックボックス化してそのノウハウを秘密にする案件の管理は、当然ながらしっかりと行っているが、それほどナーバスになってはいないという。とはいえ「似ているな、と思う製品があれば、調べるようにしています」と小山主任。こうして太田部長と小山主任が、自社の知財権の基盤をしっかりと守っている。

知財を海外に出すのは難しい。展開はじっくり時間をかけて慎重に

同社の製品は、既に複数の国でも活躍している。中でも 2007 年に開通した台湾新幹線の建設や、保線装置採用の実績はよく知られているだろう。特許権も韓国

COMPANY DATA

所在地：東京都杉並区荻窪 5-26-13 荻窪 TM ビル 6F

電話番号：03-3392-6831 URL：http://www.kaneko-ks.co.jp/

設立：1951 年 1 月 18 日 資本金：4,000 万円

売上高：非公開 従業員数：143 人（2011 年 4 月 30 日現在）



測定からプリントアウトまでの機能をコンパクトに搭載した軌道検測装置。「トラックマスターオートタイプ」。高低、軌間、水準などが検測可能



軌間、バックゲージ、水準、平面性をデジタルで計測できる「ゲージタイプ平面性測定器」



「道床沈下検知装置」。軌道の変状計測器の一種で、傾斜感知器や伸縮感知器と組み合わせて利用している

などで登録している。そんな中、海外で模造品が出回ったこともあった。「しかしその模造品はきちんと作動しなかったの、あらためてうちに依頼が来ました」と金子代表は、笑い話のような実話を披露する。この話からも、今後さらに海外からのニーズも高まっていくだろう。

しかし金子代表は、当分は多くの力を国内に注いでいきたいと話す。その理由の一つに日本と海外の知財権のシステムの違いにも関係がある。「海外でも、特許申請をするだけなら難しくないでしょう。ただ侵害されたとき、国や地域によって解決方法が違うなど、予想できる問題はいくつもあります。本格的に海外進出にするとしても、会社の方向性や人材などとともに、知財対策についてもじっくり考えてからにしたいと思っています」と金子代表は笑顔を見せた。

知的財産活用のポイント

が中心になって厳選し、申請の有無を判断している。しかし申請しないものについても、日付が入った関連書類等はきちんと保管している。これは万が一にも、他社から権利侵害を警告された場合、先使用权を証明できるようにするための用意だという。知財権取得に登録したものだけでなく、生み出したすべてのものを守り、育む姿勢に、同社の知財への愛情と誇りが伝わってくる。

自社が生み出したすべての知財を誇りと愛情を込めて大切に育む

株式会社カネコは創業時から研究開発部門を設置し、1993 年にはさらに研究棟を作るなど、人材育成にも情熱を注いでいる。その環境から生まれる数々の製品は、その後も常に改良を続け、厚い信頼を獲得してきた。

こうして蓄積される同社の知財は、社長や知財担当者など